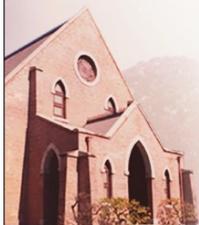


建学の精神とキリスト教 - 501 【第12回】

キリスト教と人権・尊厳



同志社大学 神学部教授
良心学研究センター長
小原 克博

1

1

同志社と人権

3

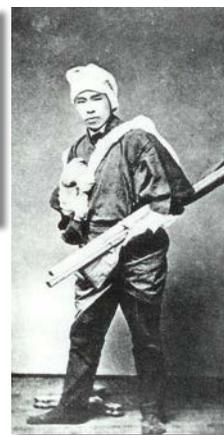
Overview

1. 同志社と人権
2. 人権のキリスト教的根拠としての「隣人愛」
3. 尊厳とは何か
4. 今回の課題

2



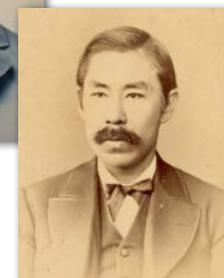
1843
誕生



1864
脱国



1890
死去



4

「米欧教育視察」から

午後私たちは、フィラデルフィア市の西の部分にあるブロックリー救貧院を訪れた。貧民、身体障害者、孤児のための部屋があり、男性と女性、幼児、身寄りのない貧しい老女たちのための入院施設もあった。

知的障害者用の病院には男子八百五十人と女子五百人が入っている。授産施設では仕立て、靴作り、織物、石鹼作り、銅器作り、ペンキ塗り等が行われている。最後に私たちは製パン室を見た。そこには砂糖、糖蜜、肉といった、必需品すべてを貯蔵していた。(1872年、『新島襄自伝』134頁) ☞ 『新島襄365』【5月16日】

5

「同志社大学設立の旨意」から

これ**基督教主義**をもって、我が**同志社大学徳育の基本**と為す所以、而してこの教育を施さんが為に、同志社大学を設立せんと欲する所以なり。

吾人の目的かくのごとし。もしそれこの事を目して基督教拡張の手段なり、伝道師養成の目的と云う者は、未だ吾人が心事を知らざる人なり。吾人が志す所の者、**なおその上に在るなり**。吾人は基督教を拡張せんが為に大学を設立するにあらず、ただ基督教主義は、実に我が青年の**精神と品行とを陶冶する活力**あることを信じ、この主義をもって教育に適用し、さらにこの主義をもって品行を陶冶する人物を養成せんと欲するのみ。(1888年、『新島襄 教育宗教論集』31頁) ☞ 『新島襄365』【1月23日】【1月24日】

7

講演草稿

「京都看病婦学校設立の目的」から

今文明諸国に人々が多分の金を投じて病院、貧院、幼院、^{てんきょう}顛狂院または看病婦学校等の設けあるは、社会の為に計る所の純乎たる慈善心すなわち宗教心より起りて、人を助け人を救うをもって目的と為す所でございます。而してこの目的は**基督の、「人を愛せよ」と云う教え**に原因する訳でございます。(1886年、『新島襄教育宗教論集』129頁) ☞ 『新島襄365』【12月25日】

6

2

人権のキリスト教的根拠 としての「隣人愛」

8

隣人愛

彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『**隣人を自分のように愛しなさい。**』この二つにまさる掟はほかにない。」（マルコによる福音書12:28-31）

9

イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』（続く）

11

善いサマリア人

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は**自分を正当化しようとして**、「では、**わたしの隣人とはだれですか**」と言った。（続く）

10

さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「**行って、あなたも同じようにしなさい。**」

（ルカによる福音書10:25-37）

12

この最も小さい者

「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』（続く）」

13

それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。**この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。**』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」（マタイによる福音書25:31-46）」

15

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。**わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。**』（続く）」

14

障がい者と神の業

さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。**神の業がこの人に現れるためである。**」（ヨハネによる福音書 9:1-3）」

16

「触れる」こと—社会福祉の原点

さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが**深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ**、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。（マルコ福音書1:40-42）

17

現代における「尊厳」

- 世界人権宣言（1948年）
 - 前文「人類社会のすべての構成員の固有の**尊厳**と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎であるので、……国際連合の諸国民は、国際連合憲章において、基本的人権、**人間の尊厳**及び価値並びに男女の同権についての信念を再確認し、」
 - 第1条「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、**尊厳**と権利とについて平等である。」
- 日本国憲法
 - 第24条「2 配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、**個人の尊厳**と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。」

19

3

尊厳とは何か

18

「尊厳」の系譜

- 西洋史における起源
 - 古代ギリシア・ローマに遡る人文主義的源泉とキリスト教的な源泉
- 古代ローマ
 - リベルタス（自由）は全ローマ市民に付与される価値とされる一方、ディグニタス（尊厳）は高貴な身分の者にのみ帰属した。他の動物種に優越する人間の尊厳が語られる一方、特定の間人や人間集団に対し、特別な名誉や社会的地位を伴って尊厳は付与された。

20

・ キリスト教的な源泉

・ 創世記1章26-27節（後述）に由来する「**神の像**」を人間の尊厳の中心に据えたが、現実社会では尊厳は万人に付与されたものではなかった。カトリック教会に反する教えを説いたりした場合には、異端として批判され、破門されることもしばしばであった。破門は尊厳の剥奪を意味していた。

・ 近代以降の尊厳

・ 国家（帝国）や宗教の権威から独立した内面的価値として尊厳概念が成立したのは啓蒙主義以降であり、カントによるところが大きい。近代以降、尊厳の担い手の中心は神から人間に移行し、**理性・自律性**が強調される。とりわけ現代においては尊厳の文化的・宗教的要素を取り除こうとする傾向が強い。

21

柏木義円と神の像（肖像）

小学校教員として働いていた群馬県で、海老名弾正の影響を受け、安中教会で洗礼を受けた。その後、同志社で学び（1889年卒業）、新島の薫陶を受ける。新島の精神をもっとも明瞭に継承した人物の一人。1898年以降、安中教会牧師となり、軍国主義を批判し続けた。その柏木がたびたび使ったキーワードが「神の肖像」である。



柏木義円
1860-1938

23

創世記1章26-27節

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」**神は御自分にかたどって人を創造された。**神にかたどって創造された。男と女に創造された。

神の像 (Imago Dei) とは何か？

22

新島襄と「神の像」（柏木義円）

去れば級中の最も劣れる者に心を注ぐを以て教育の最良方法と為し、学校の祝会に於て放校せられたる二三の学生を憶ふて泣き玉ふた。決して有望の青年は愛するも平凡の学生は顧みないと云ふ軽簿なる教育家ではなかつた。而してこれは先生が全世界よりも重き人一人の価値、**神の肖像**たる人格の尊貴無限を認めて居られたからである。チャンニングは「人なる名称は帝王と云ふよりも大統領と云ふよりも尊貴なる称号なり」と言ふた。先生の不羈独立の精神、自由教育、自治教会主義の根底は、実に此に在るのである。（伊谷隆一編『柏木義円集』第二巻、160頁）☞『新島襄365』【8月24日】

24

「尊厳」「神の像」の再検討

- ・人間はいつでも**理性的・自律的存在**であるわけではない（誕生・終末期、各種の知的障害）。人間の尊厳は人間の相互関係に依存。
- ・「神の像」は、人間を他の生物から区別する特権的・存在論的な概念ではなく、人間が徹底して**非自律的・依存的存在**であることの受容（「弱さ」の受容）と、特定の人間類型（力を持ち自律した理性的人間）を偏重することの拒否を促しているのではないか。

25

「尊厳」の境界をめぐる新たな課題

- ・動物／人間／人工物（技術）
- ・生命の開始（胎児）／人間／生命の終了（脳死患者）
- ・死者／人間（生者）／未来世代

26

4 今回の課題（600～800字）

- ・今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。
- ・『新島襄365』【1月1日】～【1月31日】を読み、もっとも関心をひかれた日付を《二つ》あげ、それぞれ、その理由を述べてください。

27